

《原 著》

膠原病における ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT の臨床的有用性

伊藤 一貴* 杉原 洋樹** 全 完* 彦坂 高徹*
足立 芳彦* 田邊 卓爾* 米山 聡嗣* 加藤 周司*
中村 智樹** 東 秋弘**

要旨 ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT が膠原病の心筋病変の検出に有用か検討した。全身性エリテマトーデス (SLE) 12 例, 全身性硬化症 (PSS) 8 例, 多発性筋炎 / 皮膚筋炎 (PM/DM) 6 例, アレルギー性肉芽腫性血管炎 (AGA) 3 例を対象とした。安静空腹時に 111 MBq の ^{123}I -BMIPP を静注し, 15 分後より SPECT で撮像した。SLE の 12 例中 7 例 (58%), PSS の 8 例中 6 例 (75%), PM/DM の 6 例中 3 例 (50%), AGA の 3 例中 3 例 (100%) で BMIPP の集積低下が認められた。左室駆出率と BMIPP の集積低下程度との間には負の相関が認められた。また, 局所壁運動異常の程度が高度な領域において BMIPP の集積低下の程度が高度であった。以上より, ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT は膠原病の心筋病変の検出のみならず病態評価にも有用と考えられた。

(核医学 37: 327-332, 2000)